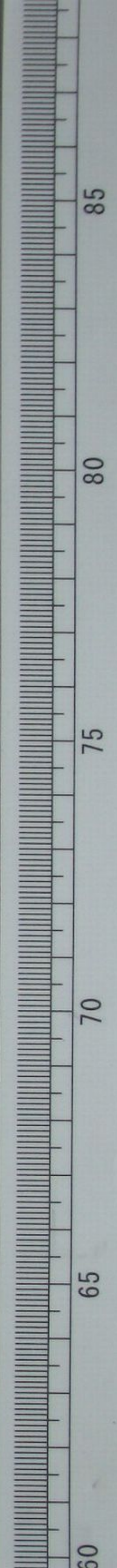
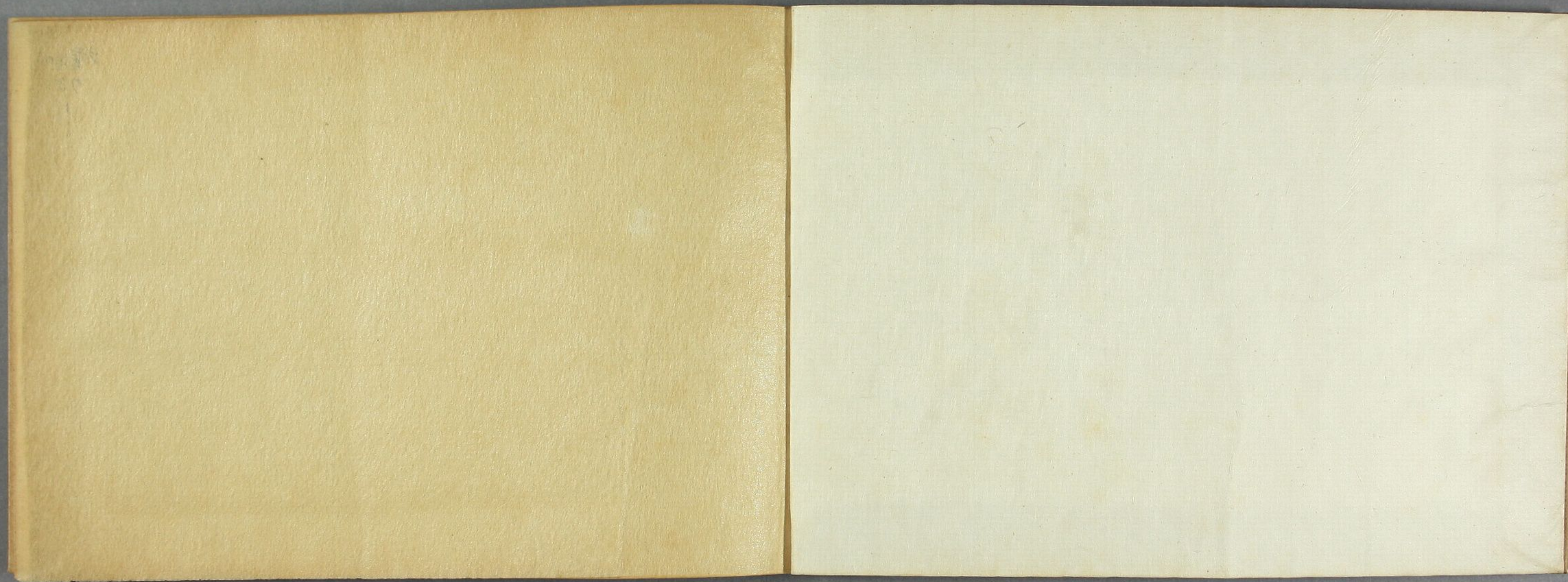
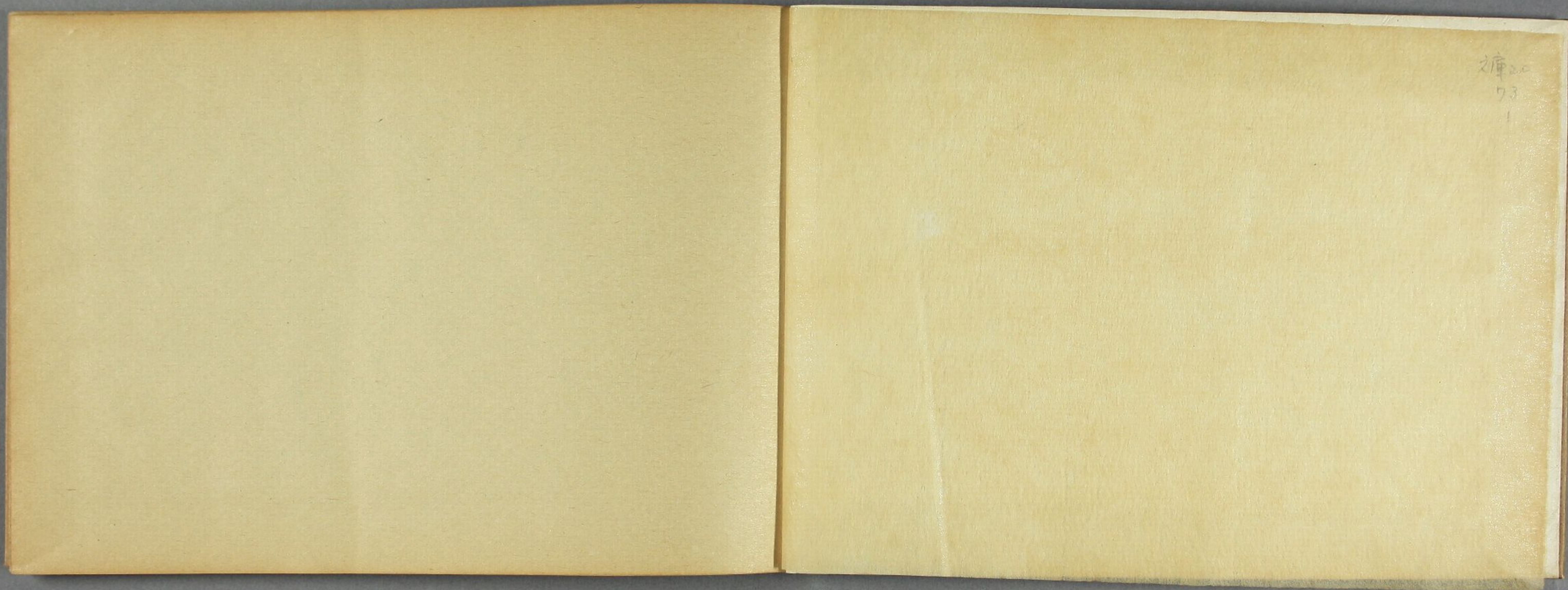


菅草 上

伊地知文庫
文庫20
73
1







禪
73
1

五五草一才一

五五草

五月五日端午の忌に身志作す

月の夜花の香に酔ひてさか

日毎年世はたよつてくま

夢に花もよほくさるるをんか

草子庵舎す

には水に香ればまある物産をね

こころにあてぬ物言の国は

あまのしめをくつてくさるるをんか

いかりふらふらふらふらふらふら

いかりふらふらふらふらふらふら

いかりふらふらふらふらふらふら

いかりふらふらふらふらふらふら

いかりふらふらふらふらふらふら

いかりふらふらふらふらふらふら

いかりふらふらふらふらふらふら

いかりふらふらふらふらふらふら

いかりふらふらふらふらふらふら

萱草一

伊地知氏書冊

五言連歌

五月一日独吟の連歌志作
月の夜花のまきこけりてさうか

日毎年独冷よつる月よそ
暈れ初も心こころる子見んか

草子庵命よ
はる水よあらばまある物戸くね

こころこめておのれゆきとの内よ
あはしあはれとつる子よわらふ

かすははは梅さく管のまよはれ
しめりふらりいふまあや月夜

梅うらまをわらさうをまあや
あはれよらるはりよのまあは

山こもいあらよらさし
まよはれ香

今物らよらるのそ清きよその香
清うりやいふのこれまよはれ香

柳と
まよはれよらるい香れんまよはれ



芳のこころをさあつちの柳か
糸あつた月日はほろほろの柳か

歌不夫

をくくちの中をいりて中よき野に
浪よ去いりてけのすくせんか

其の白くけのすくせんか

まよそえんそくやまきまき花
の人の花をけりてあはれ

君花とつふ心と

わさすんくささい花のさるんか

東山堂光院おて竹舎

花をいひ人けりてあはれの中

お順法師の坊おてあはれ

くしつやよりあはれ花れあはれ

右津宮法師

手あをうけし神病のさるんか

しげきあはれ花や地代この花

けりていひてあはれ

二見浦の竹

水あふ入はれあはれ

取の舎

りの中をいひてあはれ

糸さるんか

けりてあはれ

まよそえんそく

いひてあはれ

くしつやより

人あをうけし

ゆき花のさるんか

まよそえんそく

日あをうけし

花やひくく

あはれ

景のさるんか

有清道場

花やひくく

あはれ

花をいひ

あはれ

松尾神主のりしよて千のり
さくらさきの花平春 三つ葉の
花のりしよて

見下りのやわらば花乃山あり
南無妙法蓮華經のりしよて

三つ葉のりしよて花のりしよて
日あはれさよて

切人のむしうしんせり
二条開白家少て高座し

徳さき花やそりしよて
入京すて花のりしよて

昔をよそ一庭のりしよて
花のりしよて

春のなかりしよて
つしよて

花のりしよて
花のりしよて

花のりしよて
花のりしよて

花のりしよて
花のりしよて

花のりしよて
花のりしよて

花のりしよて
花のりしよて

花のりしよて
花のりしよて

花のりしよて
花のりしよて

花のりしよて
花のりしよて

花のりしよて
花のりしよて

花のりしよて
花のりしよて

花のりしよて
花のりしよて

花のりしよて
花のりしよて

花のりしよて
花のりしよて

花のりしよて
花のりしよて

りよのよはせのりのりよの花
地へ所し時長尾に弘字鏡金
かよよ又々やととあやふわらん
まのよ

氷さひららうれおのくんか
歌あうす

るまよらうら花つむま野か
言まの成

春よよとらうらわれいまさう
三月あう

らうらに独らんまら
人よらうらうらうらうらうら
の由よ

まらまらの神るひらとまら
らや今と神人よとととと

まらのうらうら
らうらとまらわれまら
まらとありしとまのりうら
まのらうらうらうらうら
らうらうらうらうらうら

小島大納言まらとまらのまら
かあうらうらうらうら
まらまらまらうらうらうら

まらまらまらうらうらうら
まらまらまらうらうらうら

うらうらまらまらうらうら
まらまらまらうらうらうら

まらまらまらうらうらうら
まらまらまらうらうらうら

まらまらまらうらうらうら
まらまらまらうらうらうら

まらまらまらうらうらうら
まらまらまらうらうらうら

まらまらまらうらうらうら
まらまらまらうらうらうら

まらまらまらうらうらうら
まらまらまらうらうらうら

まらまらまらうらうらうら
まらまらまらうらうらうら

まらまらまらうらうらうら
まらまらまらうらうらうら
白鳥まらうらうらうら

人よつらりきりあつたの内よ
こゝろの中しはこゝろの中よ
うららかにやあつたやうに
あつた月日よつたもけりこゝろ
こゝろよこゝろよこゝろりりり
草庵舎子

こゝろの中しはこゝろの中よ
あつた月日よつたもけりこゝろ
こゝろよこゝろよこゝろりりり
草庵舎子
こゝろの中しはこゝろの中よ
あつた月日よつたもけりこゝろ
こゝろよこゝろよこゝろりりり
草庵舎子
こゝろの中しはこゝろの中よ
あつた月日よつたもけりこゝろ
こゝろよこゝろよこゝろりりり
草庵舎子

花よふせのうき流る花流るて
人よつらりきりあつたの内よ
こゝろの中しはこゝろの中よ
あつた月日よつたもけりこゝろ
こゝろよこゝろよこゝろりりり
草庵舎子
こゝろの中しはこゝろの中よ
あつた月日よつたもけりこゝろ
こゝろよこゝろよこゝろりりり
草庵舎子
こゝろの中しはこゝろの中よ
あつた月日よつたもけりこゝろ
こゝろよこゝろよこゝろりりり
草庵舎子

心教僧坊中印花を
印花と云ふは、いふ事ありたり
日心伝

香よりりあきき涼氣を
杜のの葉よりりあきき
は昔のよき一層の
今人の心を
さるるはらりよ
さるるはらりよ
水鶏を

月のすきんを
水鶏を
六月の法
下流とさるる
東へさるる
池と申す
倭よりの
五月のついで
日東へ下り
梅りのついで

ついでとさるる
武蔵野は
さるる

伊勢國へ下り
二条園自家の
神と云ふは
あつた

日心伝
神と云ふは
水と云ふは
納涼のついで
花と云ふは

しげ原 若しちりあきになのま
けんあまさきりり神のあさすし
人よつらー多きあつたよ
とあのおもくやあおあきさばか
い板を

八重ももつゆの月のあうま川
若き道後唯板の月次よ

い板川 秋やふらえのあさすし

中富大細玄家 櫻多の百の村よ

とまのたのふちあきあさうんけ

む川あまらや月すうりけ

まをうよきあのら木あきあき

あき法眼の坊よてゆい合

のらさきとあつらうりてえさ

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

あしあまふりのはあきあま

小島大納言家の百りり

娘ふりりの草やくらり

さくらさくら小田の注ぎ徳長いさそ

小島大納言百りり

さくらさくらさくら花のりり

梅さくらさくらさくら

さくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

萱草廿三

秋と云

西方精舎見侍時つゝ人の坊
て作し一序ふ

木くくのつゝをさるま一葉か
東へり時すりの國とて

をそ採やい見すれらるる
日國を川礼部平とて

風とすまきしり採の何きや
あこの舎のうらよ

吾有り相れさうくさこれぬ
あぬそさけいりせぬと柳と

てつゝのありの田よ
三川あり人に治きり何のさる

早人ちやあのを七つれうとれ
任者法系と七つ

り合のうやいひの戸採のり
秋れありと

のよささ月夜と葉の秋れあり
あへり時或免國と人れ

作し舎の田

あはあきさきりあささるらり
むし野いりやを花のやと

採あさやいこりの花ささり
りやいさ花うすくり野人のあ

あをそそ端もすまのあさ本
報はすれ比合作し田よ

あき霧のうすをすきさるる
りしりけをのさるのり月夜

神いそちちり花野のあふ
あこれるせむさうりやあへり

月心
花ふるあむ神あさ野分
野ふる人喜るせまうまやこふ

八月十六日の
あはあ月まらあのうたれ

あうて月々い採のこよの
せのさうしは名月のさよ

のる身と月よさるる来れ

何年や悔をせよその精句 再
独吟のうらみ

日鏡三六のうらみをせんりて
くつー山乃 阿婆のむらさき
ちのれは

かのうらみも余葉のうらみ
日の中はあはこころにあらうら

阿婆のうらみの中をきくはこころ
味の戸に花のしほのうらみく

そらあうらみそ味を戸に
あうらみ花のうらみく 阿婆の

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

こころをうらみ花のうらみく
こころをうらみ花のうらみく

柿とつゝのいかりりゝはせり存言
秋のいせのあめの子はくく
独りの花はくく

きつゝのあめの子はくく
うれあめの子はくく

千のれはくく

桜のあめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

あめの子はくく

まじりあつたまじりやの味のくれ
つらつらのまじりほよらつた
うさうさいふかたふたれ味の香
あつたまじりまじりあつた
ほよらのまじりあつたまじり
うさうさいふかたふたれ味の香
ほよら新味まじりあつたまじり
水島大坂のまじりまじり味の
まじりあつたまじりまじり
うさうさいふかたふたれ味の香
まじりあつたまじりまじり

